

八重山海域の魚類資源管理技術の確立

秋田雄一*, 太田 格, 海老沢明彦, 上原匡人

八重山海域は、県内の沿岸性魚類の漁獲量の約3割を占める重要な海域であるが、その漁獲量は減少を続けており、その原因は漁業者数の減少や、漁獲対象資源の減少と考えられている。このような状況を受け、水産海洋技術センターと同支所は、八重山漁協と協力して主要な漁獲対象種について漁獲体長制限や、保護区（産卵場）における禁漁期の設定による資源回復を促す取り組みを実施している。本事業では、これらの管理策の効果を評価することと、管理策の改良・改善を提案していくことを目的としており、漁獲量や体長組成のモニタリング、保護区での調査、重要種の稚魚密度調査、資源量推定などをおこなってきた。平成25年度は、漁獲体長制限の達成率の推定、セリ名称別漁獲統計の再整理、イソフエフキの資源量推定、名蔵湾海草藻場での稚魚密度調査、およびこれらの成果の広報をおこなった。

1. 漁獲体長制限の達成率の推定

八重山漁協および泊魚市での体長測定調査の結果から、主要な漁獲対象種の体長組成を算出した。その結果、2013年の制限体長の違反率は、スジアラでは30.6%、シロクラベラでは3.9%であった。

2. セリ名称別漁獲量の再整理

八重山海域産沿岸性魚介類152セリ名称の1989年から2013年における漁獲量とCPUEを集計し、分析した。漁獲量、生産額ともに大きく、重要性が高いと判断されたのはハタ科、ブダイ科、フエフキダイ科であった。主要なセリ名称について、当該期間における漁獲量およびCPUE、その他の状況も踏まえ資源状態を「増加」、「安定」、「変動」、「減

少」、「不明」の5段階で評価したところ、67%が「減少」と評価され、多くの沿岸性魚介類の資源状況は、低迷状態にあると考えられた（平成25年度研究報告）。なお、セリ名称別漁獲量について、上位11種についての情報を抜粋し、広報紙第7号にて紹介した。

3. イソフエフキの資源量推定

イソフエフキの体長組成データから資源量推定を試みた。しかしながら、雌雄での成長に差があることや、過去20年間での成長が変化したことから、体長組成の年齢分解がうまくできず、今後さらに検討が必要であると考えられた。

4. 名蔵湾海草藻場での稚魚密度調査

石垣島名蔵湾の水深1m前後の海草藻場内に150mの調査定線を設け（北岸2カ所、南岸6カ所）、両側2.5m以内で見られた水産重要種16種の稚魚について、潜水目視観察により種と全長を記録した。

5. 広報紙「さかなのおはなし」による情報提供

平成25年度は、計6回広報紙を刊行し、前述の研究成果のほかにも、平成25年度から改訂された資源管理策の紹介（広報紙第3号）、標識放流調査について（広報紙第5号）、水産重要種の育成場として海草藻場が重要であること（広報紙第6号）などについても取り上げた。

この広報紙については、水産海洋技術センターホームページにおいて公開している。（さかなのおはなし：<http://www.pref.okinawa.jp/fish/sakana-hanashi/index.html>）

*Email: akitych@pref.okinawa.lg.jp